歸スルカ。氣化ト形化トノ別アルノミニテ。 泥二入リテ見へス。水ハ次第二清ミタリ。此池。 余門生信友虎吉等下鑿チシ處ニテ。 泥ノ深サ。 ヲ見ルニ。 其多キヿ沙ノ如シ。 或ハ云フ。 水ト潮トノ間ニテ湧クナリト。 然レハ泥ヨリ出テ。泥ニ 其泥ト化シタルコヲ知レリ。 淀川二三月ノ頃。 水ヲ汲ムニ。 一桶ニ小鰻鑎數十ヲ汲ムコアリ。 水中 余力庭中ノ池ニ放チシニ。 翌春二月マテモ出テサルユへ。 八月末マテハ。 生滅ノ理ハ異ナルコナシ。 水モ黑キ位ニ游泳セリ。 霜落水清ミタルトキ 悉クサラヘテ見シニ。 一尾モ見へス。始メ

一杜蓼洲ノ話シニ。冬分ハ。 クルニテモアルマシキニ。 自然トサトルハ。 異類ニテモ良知ハアルナラン。 腰網ヲ下ス所ノ魚ハ。 敏映ニシテ。 網ヲ避クルニ巧ミナリト。 思フニ網ヲ脱シタル魚。 ハ。艦其事ヲ覺リシニャ。皆平臥セスシテ。側臥ス。人又之ヲ知リテ。横ヨリ之ヲ叉スト云フ。又 鼈泥沙ノ内二伏ス。 鼈ノ伏スル處ハ凍ラス。 因テ叉シテ之ヲ取ル。 近頃 他ノ魚ニ告

一或書ニ。命婦石川ノ色子ト云ヒシ人。 筑紫彦ノ山ニテ。 唐人ニ遇ヒラ。 筝ノコトヲ傳へ。 宇多天皇 人モ彼ノ地ニ來リシニヤ。 ニ授ケ奉ル。 是等ノ始メナリト。彦ノ山ハ。 余カ郷ヲ距ルコト。 僅カニ生日程ナリ。 千年前ハ。

一彦山ノ中。材木石二化シタルト云傳へテ。 柱或い板二似タルモノアリ。 大門 エフ 處モ。 玖珠郡角ノ木坂ト云フ處モ

得ス。又或書ニテ、與州南部ノ地ニ。材木村アリ。山野海島石。 是等い定メラ孫山ノ部ニ屬スルナラン。 坂嶺ト云ラ地。 又對馬ナトニモ。 カ。 併シ海底ヨリ數十丈積起リシハ。 眞ノ材木ニテモアルマシ。 洋説ニ。 祖山嗣山孫山ノ説アリ。 洞穴アル由 天保壬寅ノ年。 其類アルヨシヲ見ル。 洋人ヲシテ窮理セシメハ。 化石ト云ハン 大村侯二從ヒテ。 其地ヲ過キタレ圧。 皆材木ノ如ク。 風雨ニテ探ルコ 又與羽ノ界。

耶馬溪中ノ柿坂下云ラ處ニ。 古キ墓アリ。 土人後藤叉兵衛ノ墓下云ラ。 余是ヲ探リシニ。 苔蒸シテ サルコ明ケシ。訛傳知ルヘシ。 數十通。而焚之。ト云フ處ハ分明ナリ。 碑字埋沒セリ。併シ居士俗稱又兵衛。 目光射人。承應中自屠而死。 蓋シ僧ノ文ナリ。 後藤又兵衛ナラハ。承應中マラ存命 將死前一夕。盡出,如,威狀者

0 1 22m3 4 5 6 7 18 9 10 1 2 white 3 measure 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30

ノ記ニ。 雲州ノ内。牡丹高サ丈ナルヲ生スル島アリ。 蜀青城山有。牡丹二株, 皆高三十丈。 一名ヲ牡丹島ト云フョシ。 號大將軍小將軍トア 西人ノ 虚言ナリト思セシニ。 元人 誕 25 常二意外二出

對州ニハ。 神后ノ城跡アリ。 後鳥羽院ノ陵ハ。際岐ニアルヘキニ。伯州ニアル由。 盤石ヲ以テ築キ成ス由。 伯州逢坂驛ノ橋井富三郎ノ話シナリ。

往々院本小說二因テ。 後人地名ヲ作リ。 故事ヲ附會ス 大阪二。 崇禪寺馬場敵討ト云フ

九柱草堂随筆卷之七

七七七

分ツて能ハジ。 又無キヿヲ。 書ニ有ル様ニカキタルヲ。其書行ハルレハ。 イツモナク。 人信シテ疑ハス。 亦風習ノ然ラシムル處力。 然ルニ我邦ニ之ヲ祭ルモノアリ。甚シキハ其貌ヲ現スルニ至ル。 捧腹ニタヘサルコナリ。潘吳八且舎ラ、論セス。 テ。潘氏大二怒リ。終二別ヒ。 官ヨリ捕ヘテ。無耻ノ犯人ト書シタルヨシ。 一書二見ヘタリ。 、稱スルモノアリ。 獨我邦ノミナラス。 兗州陽穀縣ニ。 西門塚ト云フ古墓アリ。 ル婦人アリ。 人ノ為メニ殺サレントセシニ。 観音ノ像代リテ及ヲ受ケタルト云。 浮屠ノ造説アリ。 傳フ西門氏ノ正室及と簉室ノ属ト。 或時二家社會アリシニ。 水滸傳ヲ演ス。 潘金蓮カ事ニ至リ 江戸ニモ亦アリ。 其近傍ノ地名マテ。 一々符合セリ。 釋迦ノ經二說キタル佛名ナト。 多クハ寓言ナリ。 千年ノ後ニ至リテハ。 我豐ノ耶馬溪中ニモ。觀音ヲ念ス 其傍ニ潘吳二姓ア 恐クハ眞偽ヲ 其子孫ナト

有馬ノ湯ハ、湯中ノ郷愿ナリ。 然ルニ其名天下ニ高キハ。 都ニ近キヲ以テナリ。我豐ノ別府。 家々 名ハ有馬ニシカス。物り生スル地ニテ。 ニ湧出。 又海上ノ沙湯ナト。 若シ都下ニアラハ。 士庶人ハ入ルコヲ得サル位ノコナルヘシ。 遇不遇アルコト如此。 况や人ヲヤ。 然シテ

泰山い。富士ト高低如何ント思ヒシニ。茶翁ノ説ニ。古人ノ句。清晨上泰山。下山未昏黒トアリ 然レハ富士ョリハ。遙カニ卑キナルヘシト。思フニ泰山モ。我邦ノ阿蘇角盤山ナトノ如ク。 絕頂 テハ上ラサルコモアルナル 僅ニ半

併シ一説ニ備フヘシ。 府ハ右等ノ地ニ比スレハ。 殊ニ暖ナリ。亦温泉アリ。 信州ハ寒國ナリ。 ノ末。 猶繁霜アリ。 故ニ造物者。 温泉ヲ生シテ土人ヲ煖ムルナラン。予曰。 此説必シモ然ラス。別 温泉ア 其地多 高寒ナリ。 兒孝云。 我豐。 嶽本湯平湯壺等。 名高キ温泉アルフヲ聞カス。 春暮

王貽上カ香祖筆記ニ。 西域ノ賈胡。 某家几ノ上ノ一石ヲ見テ。 買ハント云フ。 主人屢直ヒヲ貴クス 温公ノ僕ヲ教へラ。相公ト稱セシメタルヿヲ。温公歎息セラレシモ。皆此類ナリ。 間ニ。マ、外人己ヲ貴フニ。 己其敌ヲ知ラスシテ。 僅ニ誇張スレハ。 子ヲ磨損セリ。 既ニ用ニタ・スト云フテ。 顧ミスシテ去ルト云々。 按スルニ。 嬉子ハ孏蛸ナリ。世 アリテ。 網ヲ孔ノ上ニ張ル。後ノ網出來レハ。 前ノ網ハ即時ニ消失ス。 コレ天然ノ日晷ナリ。 今蟢 息シ。 至賓無用トナレリ。 其故ハ。 石ニ十二ノ孔アリ。 十二時ニ應シテ。 レモ。猶カハント云フ。主人更二直ヒョ貴クセントラ。格別二之ヲ洗ヒケレハ。賈胡見テ。 人是ヲ嫌フコトアリ。 一時カハリニ。 東坡ノ。 紅蟢子 大二嘆

0 1 22m3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 wate 3 weeks use 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30

一余少キョリ石癖アリ。曾ラ小虎力家ノ酸菜ヲ壓ス石ヲ見ラ。乞ヒカヘリタリ。 笑ヒシカ。辛亥ノ歳。江戸四日市ノ玉工ニ示シケルニ。水蒼玉ト云フテ。殊ノ外感心シ。 カ。今年二至り。余其形長キヲ以テ。 前ノ紅蟢子ヲ洗ヒ損シタルト。 硯ヲ作ラント欲シ。 同様ノ憾ミナリ。 玉工正親ニ命シ鑿セシムルニ。誤テ打破 因テ團玉トセリ。去年雲州大社ニテ。 人凡石ナリト云フラ。 磨キケル

九桂草堂隨錐卷之七

ーセ

ムルニ。本邦未曾有ノ寶玉ナルヨシ。方二珍藏セリ。 ヒ。 其下琥珀ノ如キ黄色アリ。又其下ハ。 玲瓏トシラ。 眞珠ノ如キ色ヲナセリ。 正親ヲシラ磨カシ 地震二遇と。翌日田間ニテ。 一石ヲ拾フ。 徑一寸ハカリ。 重サ二十錢。 表ハ紫質ニシテ。 黑ヲ帶

一玉い。温潤含蓄シテ。隔テ、物ヲ見ルニ。物ノ影ハ移リテモ。 秘訣、此ニアリ。 物ヲ見ルニ。透徹シテ。 見へサルコナシ。影ハ却テ移ラス。是其異ナル所以。玉ヲ相スルノ 透カシ見へス。 水品い。 含蓄ナク。

博多ノ松永宗助ハ。故家ナリ。 中央二圓き鉛ノ重リヲ村ケタリ。 除ハ皆精銅ナリ。 重サ一貫目除り。 蒙 今八長州領ノ内ニ。 漁人網ョ下シテ。 一物ョ得タリ。 其形チハ闘ノ如ク 詳ナラサレ 氏。 其邦製ニ非サルコ明ケシ。 近年玄海ノ東。 赤馬關ノ西北。 ニテ。周リ二尺五六寸。四方ヨリ柱ノ如クニ。 銅ヲタテ。 漸ク斜ニシテ。 其藏スル所ノ蒙古ノ兜ト云フモノ。 真偽ハ

軍器沈ミタルナルヘシ。 土人余カ古ヲ好ムヲ以テ。 送り來レリ。 博多ノ外。此地ニ來リシヲ。 土人討捕タルヨシヲ云傳フ。 其時彼ノ 遍ク博

物ノ士ニ示セル。其用ヲ知ルモノナシ。 己酉人歲十月初旬 西宮ノ北鄙。 獅子窟ニ游へり。 其地僧花アリ。 菊盛ンニ開ケ 余從者岡長梧

書キタル額ナリヤト問フ。 ナキニ獅子ノ頭ヲ折リ。 希代ノ寶ヲ損セリト怒ルコ甚シ。 余是ヲ慰ムル爲ニ。 忽ニ。 此額ハ何人ノ 是ハ惜シキコナリト云フ。 主僧忽チ沙彌ノ頭ヲ打ツ。 余何事ソヤト云フ。 主僧沙彌ヲ叱シテ。 主僧。 此ハ少々話シアリト云フ。 余印ヲ取リテ。此ヲ視ルニ。 一顆ハ獅子ノ頭及胸打碎ケテ見へス。 薄紫ノ玉ナリ。 余大二篇キ。 此レハ。 一顆十金以上ノ物ナルヘシ。 何レノ處ヨリ得玉フャト云フ。 ルヲ悟ル。 因テ座ニ就テ茶ヲ乞フ。 其机上ヲ視ルニ。 印材ニツアリ。 高サ五寸除。皆獅子紐ナリ。 日ノ事ハ偶中ナリト云へトモ。 トコロナク。 誠二奇ナル話シ多シ。 夫ョリ我等未來ヲ知ルト云フテ。 土人毎日群ヲナシ來ル故。 先 八月末果シテ歸リ來レリ。 其故ヲ問フニ。 所謂天狗ノ為ニ攝セラル、者ニテ。 海内ノ名山到ラサル スル由。 髪二寸ハカリニシテ。 山伏ノ如シ。 傍ニー沙彌アリ。 主僧ハ木食ニテ。 火食ヲ絶チ。 リ日々來ツテ。イツ頃歸ランカト問フ。 「怠りナシ。前月ノ初來リテ。 忰ハ歸ルヘキャト云フ。 我等此ヲ慰ムル爲ニ必ス歸ラント云。 夫ョ ヤト問フ。僧ノ曰。此地二。 其子十七八二テ。 失セタルモノアリ。 其父殊ノ外愁嘆シ。 神佛二祈ル 門ノ犀ニ。我等未來ノ事。 主僧是ハ拙僧ナリト云フ。 中々聞入レス。因テ此ヲ書シテ。斷フリタリ。 仰キ見ル 何モ存セス。問ハレ候「相断ハルトカキタリ。余。 **巳ムコヲ得ス。 今月末ニハ歸ルヘシト答フ。** 無車 余威心ト云フ。 云额 何ヲ威心シタルヤト問フ。 主僧年三十除ナルヘシ 余其尋常ノ僧ニ非サ 土人甚タ尊信 然ルトコロ。 此ハ何事ソ

> 長崎大学附属図書館経済学部分館 武藤文庫所蔵

0 1 22m3 4 5 6 7 18 9 10 1 2 white 3 measure 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30

答へテ。 ヲ乞ヒ返レリ。余問フ。 其振リ出シャウノ物ハ。 猶有ランカ。 主僧云ク。 此ハ無用ノ物トテ。 フカ如クニ。 阪ラ下リタリ。 余已ニ額ヲ書シテ。待チケル時。主僧歸リ ニマロビ居タリ。 必ス有ルヘシト云フ。 余額ハ唯今書スヘシ。 願クハ其壺ヲ乞來ツテクレ玉ヘカシ ニテ。漁人面倒カリ。 又上ニ取ラレンヿヲ恐レ。 終ニ持チテ逐電セリ。其處ニ。 拙僧行合セ。此印 用フル振り出シノ類ナリ。 モ。若問フ人モアランカト。 フ。 印ノ面ヲ視ルニ。 磨り潰シテ。 ルコソ。幸ヒナレ。是非二此額ヲ願ハント云フ。 モノ。廣瀬某ト云フ。主僧旭莊先生カト云フ。是ナリト答フ。 赤面シテ。 君ハ何人ソト云フ。 我ハ大阪ノ者ナリト答フ。 大阪ハ何ノ業ナリヤト云フ。 讀書ヲ好ム 人網ヲ下シテ。 三物ヲ得タリ。 一ハ金ノ大黒一對ノ由。 一ハ此印ナリ。 - 云フ。主僧。然ラハ。今ヨリ武二行テ見ン。額い宜シクト云ヒ薬テ。 一本齒ノ高キ屐ヲハキ。飛 此クノ如キ悪筆ヲ。 我三文ノ飴ヲ 大黒ハ無垢ノ金ニテ。 此二押シオケリトラ。 草紙ヲ出シ示スニ。 上ハ白文。 鎮西白鶴城主 ヲメス。 余カ日ク。此話シハ何如ン。主僧日ク。近頃此十八丁西南ノ方ニ。漁 何モ見へみ。 主僧曰。 我カ印ニセントテ。 磨リツフシタレト ヲクセス。 手二入リタル上ハ。 地頭二願と出ツへキト申ス 余額ハ隨分書スヘシ。 彼印ハ何ノ話シアリャト云 書イテ額ニスルて。 内二泥ア 主僧大ニ喜ヒラ。 先生我書ヲ嘲リタ 一ハ小ナル壺ニテ。 茶家ノ 其膽威心ナリト云フ。 洗上視 年町外ノ處ョリ。 先生先 漁人ノ子泥ラ 座上

防州三田尻ニ。 柏吉ト云者アリ。頗風雅ノ志ヲ存シテ。 ルモノ。背二一口アリ。長サ三寸。徑リ一寸。尻二又一石アリ。 ニシテ。中小空洞。水三升ヲ入ルヘシ。 其質石=似テ。 石ニ非ス。 ヲ擇取リ玉へト。挨拶シケル故。一物ヲ取レリ。 此物形チ圖ノ如ク セリ。主人云ク。此皆我網ニテ引上ケタル物ナリ。此内ヨリ。一物 セリ。辛亥ノ臘月。 余之ヲ訪セシニ。 魚骨瓦石ノ類。 室中ニ充滿 三ノーニ當ラス。而シテ塞リテ通セス。 博物ノ人。 陶器ニアラス。 蓋シ細沙聚リテ凝近シ。 鐵ョリ剛ナ 是ヲ知ルモノナシ。 浪華ノ田邊守瓶カ説ニ。 外面い。 漁獵ラ業ト

長崎大学附属図書館経済学部分館 武藤文庫所蔵

中二水一合ハカリモ入ルへシ。素焼ニラ。底二即アリ。

字ハ詳ナラス。 扨大阪ニ持チ歸リシニ。初

至

リラ輕ク

蓋シ敷百年。潮中ニアリ。上

余此ヲ

メ泥ヲ洗ヒシ時トハ違ヒ。 重サモ。 三倍ホト増シ。 全ク石トナレリ。

ニ漏レタル故。此ニ記ス。

ノ覽二入レ。 又長府ノ茶博士ニ示セシニ。 皆希代ノ珍器ト稱セリ。

今モ珍藏セリ。

此事其時ノ日記

猶脆カリシカ。 次第二風燥カシ日烘リテ。 此クノ如クナリタルニャ。

リシ初メハ。

0 1 22m3 4 5 6 7 18 9 10 1 2 white 3 measure 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30

畏ルヘシ。 大坂/凶宅ト云へルモノニ。 度々入リテ視シニ。 總テ一軒ノ家ヲ。 中ヨリ隔截リテ。 多クハ東南ノ ハ左マテ畏ル、トコロニアラス。 東南塞リテ。晝晦ク。 北塞リテ。 夏ノ風吹キヌカサル宅ハ。 寶ニ ノ氣通セサル處アリテ。 居ル者ヲ威スルナリト。 又怪宅ト稱シ。 狐狸ノ祟リアル者アリ。 シカシ是 方ヲ塞ケリ。然ラサレハ。 北塞リテ。 一方口ノ宅ナリ。由ラ知ル。 宅モト吉凶アルニ非ス。唯陰陽 リ。何レ蟲魚ノ窠殼ナラント云へリ。 守瓶カ説。 疑フヘシト雖モ。 外ニ説アル者ナシ。 故ニ記スピ 物ナリト。 初メ柏吉。 余二贈リシヰ。 是ハ六百尋ホトノ海底ニ。 手繰網ヲ下シテ。 挂リタルモノナ テ。陶器ノ狀ラナス。 唯口ト尻トノ二口ヲ以テ呼吸ヲ通ス。 既ニシテ。 化シテ龍ノ如キ物トナル。 マラ見シホヤハ。常二二三寸二過キス。此ハ大サ敷十倍。何レ海鼠中ノ王ナルヘシ。誠ニ希代ノ珍 一旦風雷ニ乘シテ。其殼ヲ破リテ出ツ。 老海鼠ノ化スルトコロ。海鼠海底ニ蟄スル数十百年。 松前邊ノ人。是ヲ海鐵砲ト名ツク。漁舟頗ル是ヲ恐ル。今 土砂ソノ 體二粘

或諸侯ノ臣。 凡ツ游ヒハ。 貨ニ黷レタルヲ以テ誅セラレタリ。或。彼ハ盗臣ナリト云。余シカレハ。第二等ノ罪 春ハ野二宜シク。夏ハ船二宜シク。秋ハ山二宜シク。冬ハ里二宜シ。

其人命ラ重ンスル仁愛ノ深キラ威セリト載セタリ。 ナリト云。 一等ハ何者ソト問フ。 答テ。 其マサニ用ヒラレテ。 邦ノ爲ニ聚斂スル臣コソ一等ナルへ 盗臣ト云へい。聚飲い素ヨリ棄帶ト云フヿヲ知り玉ハスヤト云。 心 入獄ノ後。 始

海邊ノ新田。 水未々落チサル内ニ。 渠洫ヲ縦横ニ鑿ツ。成丈是ヲ廣クシ。 ツテ。後渠漁ヲ埋ム。 是ヲ畝延ト云フヨシ。 而撿地ヲ受クル。 撿地墨

聞カセタラハ。何ト云フヘキャ。所謂理ノ必ス無キヿニシテ。事ノ或ハ有ルモノナラン。 先ノ澤モ斬ユルカト。皆惴々タリ。 サテ何レモ。 症ハ異ナレトモ。 皆小便閉チテ苦ニ耐ヘス。病ヒ 今兹安政三年丙辰三月。 姪孫海老作沒シ。 十一月伯兄淡窓公。 姪吾八郎。 姪孫五兵衞沒シ。 姪孫上 為.不.得.小便.也。 土邪勝.膀胱.也云々トアリ。 然レハ丙辰ノ歳ノ病ハ。 カクアル筈ノコト知レタリ。 先の膀胱二着クト見ユルトテ。 醫利尿劑ヲ用ヒタリ。 其効ハアレトモ。 病ハ滅セス。 今年ハ何ヲ以 三郎。 仁藏。 從姪松兵衛。 マサニ病ンテ死セントス。我一門死病ノ多キ。 百年來未聞ノヿニテ。祖 余初素問ヲ信セサリシニ。 數千年ノ上ニ。 既ニ此等ノコマテ。 辰壬辰甲戌丙戌戌戌庚戌壬戌之歲。 乃大陰在泉也。大陰爲濕土。 其民病爲陰病血見。爲小腹痛腫 テ此症多キャト云ヒシニ。 門人財津脩三。素問ヲ携來リ。 熟覽スルニ。 岐伯ノ説。 甲辰丙辰戊辰庚 穿鑿屆キタルハ。威心ナリ。蘭人

0 1 22m3 4 5 6 7 18 9 10 1 2 white 3 measure 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30

或人ノ話ニ。死角人ノ癖ハ。己ノ婆ヲ人ニ讓リテ。 ンニ。生ヲ殺スハ。 孽ヲ作ルナリト云コ説アリ。 是二於テ。 天ヲモ斯キ得タリト思フナリ。 漁人ノ曰。 我ハ活ノ為メニ。 一事ヲ以テ喩へ

九桂草堂随筆卷之七

一八五

余日。 然り。 自欺トハ。 此ノ謂ナリ。 魚二間ヒタラハ。 必ス喰スルモノアル故ニ。宰人アリ。 宰人アル故ニ。 漁者アリ。 畢竟ハ皆同ショ 輩コレヲ赦スニアラス。 壁い彼二人ニアリト。 此三者互ニ相推譲リテ。 誰カ壁トモ定メ難ケレモ。 スヘシト。 喰っ者ハ曰ク。 漁人之ヲ取リ。 宰人之ヲ殺ス。我ハ錢ヲ出スノミ。 且我食セストモ。彼ク。 漁人之ヲ取リ。 肉食ノ者之ヲ食フ。 我ハ中ノ取次ヲスルマテナリ。 孽ハ賣者ト喰フモノトニ歸フルノミ。 自ヲ殺スニアラス。 孽ハ必ス刀ヲ捉ル者ト。 之ヲ食フ者トニ歸スヘシト云。 料理人ハ曰 ニテ。我爲ニハ皆同シ敵ト云フヘシ。 今ノ人罪ヲ人ニ歸シテ。 己ハ発カレタリト云。 皆此類ナリ。

近頃婦ヲ求ムル者アリ。二十二三以上ノ人ヲ選フ。 テ言フ。其人終ニ解セス。 ハ猶五載ワカシト。余カ日ク。 懴ムルコナカレ。 一度ハ年老ユヘシ。 其人大二笑フ。 余ハ微意アツ 十七八ノ女ヲ薦ム ル者アリ。其人曰ク。 域ラ

九桂草堂隨筆卷之八

亦圖ヲ作リテ我ニ寄セタリ。 然レハ物ハー心ニ好メハ。必ス獲ルモノナリ。 余ニ寄示セリ。 其長サ三丈ハカリ。 色薄黒ク、腹赤クシテ耳アリ。 面長ク馬頭ニ似タリ。 蓋虬龍ナ寅ニ至ルマラ。 我郷ノ南鄙松原ト云フ處ノ溪水中ニ。 大蛇アラハレ。面リ見シト云フ人。 圖ヲ作リ。 我郷ニ山田氏ナルモノアリ。 其兄弟皆大蛇ヲ見ルヿヲ好ム。 其ノ地ニ大蛇アラハルト聞ケハ。 必ス 々ハ生キタル大蛇來ルモ測リ難シ。 嗚呼我輩山田氏ノ蛇ヲ好ム心ヲ以ラ。 學ヲ好マハ。 聖賢モ亦至 將通之ト云フ語。實ニ然り。 ルニ。一層ヲ加フ。葢シ昨年地震ノ時。オサレ死スル者ナリ。山田氏多少ノ金ヲ抛ツテ。是ヲ買ヒ。 年乙卯ニイタリ。 筑前佐田ト云フ村ノ溪中ニテ。 大蛇ノ骨ヲ得タリ。 其大サ松原ニ出テシ者ニ比ス ラン。 併シ其地我郷ヲ去ルヿ六里。 出沒常ナラサルヲ以テ。 山田氏見ルヿヲ得スシテ憾トセリ。 今 人ヲシテ尋ネ問ハシム。 此ノ如キコニニ十年。 ツヒニ大蛇ヲ見ルコヲ得ス。 嘉永六年癸丑ヨリ翌甲 清人ノ説ニ。 山田氏葉公ノ書龍ニ於ケルカ如ク。 又駿馬ノ死骨ヲ買ヒシ如ク。 追然レハ物ハー心ニ好メハ。必ス獲ルモノナリ。 管子ノ思」之又思」之。神 管子ノ思之又思之。

0 1 22m3 4 5 6 7 18 9 10 1 2 white 3 measure 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30

龍ヲ見タル者ナシ。

龍之蛻以首

管得一全首。

置漏下

高可二尺許一下。

M

武藤文庫所蔵 長崎大学附属図書館経済学部分館

珍説ナリ。

一漢人ノ書ニ。 往々蛇。 人ノ姓名ヲ呼フ。 我郷ニテハ。 ニ行キ玉フカト問フニ。 此ョリ椎葉山ニ向フナリト云フラ、 別ル。 其ヨリ路ナキ斷崖ニノホルヲ見 方知レス。 後十餘年ヲ經テ。 我同郷ノ人小一ト云フ者。 日向ノ梓越ト云嶺ヲ過クルニ。 麓ヨリ恠シ 戸外ニ追出ス。 其傍ニ山アリ。 聲稍ク遠ク。 山ニノホルヤウニ聞ヘケレハ。驚テ尋ネシニ。 終ニ行 忠ノ亂。蜀ノ遺民。奔殿山谷。遂為野人。能手格。猛虎、擘鷹鹿食之。騰上絕壁。 ス。 其物近キテ。 人語ヲナシ。 汝何クノ者ナリャト問フ。答ヘラ日田ト云フ。 其物。シカラハ我郷 ヨリ橡實ニテ製シタル餅樣ノモノヲ出シ。 我父母存命ナラハ。 是ヲ屆ケテ玉ハレト云フ。 何レノ地 キ長七八尺ハカリ。 野人ハ山童ノフナルヘシ。 我郷ニ伏木ト云フ山村アリ。 民家ノ子五六歳ニテ。 夜啼ラヤマス。 汝伏木ノ兒失セタルコトヲ聞キタリヤト云フ。其事ハ聞ケリト答フ。其物。我即チ其兒ナリ。 其捷キコ鳥ノ如シト。 云フ話シハ。 余少年ノ時。 小一ヨリ聞ケリ。 我今事フルトコロノ者ヨリ收メラレテ。 使役シ。 今ハ我モ敷山ノ事ヲ領セリト云フテ。 懐 木客ノ類ニ。 滿身二毛生シタル物。上り來ル。 大二怖レ。 走ラントスレトモ。體痺レラ動力 聲ヨリシテ號スルモノ多シ。我邦ノ人名か。 是二應スレハ 即チ死ストアリ。 思フニ漢土ハ音ヲ以テ ル者アリ。 蓋シ山童ノ字ナル 迚を蛇ノ能ク呼フ處ニアラス。 是即手野人ナルヘシ。 如鳥準トア = 0

先兄棣園。 余ト同ク。 江戸四日市ニテ。 水晶ノ中ニ水アルト。青草アルトラカヘリ。 水ハ轉倒ニ從 若官太夫君ナラハ。 呼ハル・事必ナシト云フ。 其人絕倒セリ。 ヨカ名呼と易き故ニ。 貍ョブナリ。ショシ。 余其人ヨリ。 直ニ是ヲキケリ。 其時ニ。 余笑フテ。 君カ名呼と易き故ニ。 貍ョブナリ。 ク。 四方ヲ顧ルニ人ナシ。 聲樹梢ヨリスルヤウナリ。 仰キ視ルニ、 貍枝間ニ蹲レリ。 乃捕ヘテ殺セ 俊助下云 晨ニ官太夫ト云フ人ノ門前 過キシニ。俊助ト呼フコエラ開

魚躍り出テ。 而シラ死スルトアリ。 又近江ノ人ノ藏セシ石。中ニニ小魚アリ。 破リシニ。 魚出テ暫生キタルハ何ノ理ツャ。 洋人ハ必ス詐リナラント云フへシ。 南唐ノ李後主ノ硯。 サケテ。 中ヨリ小 ク躍リテ死シ。常二異ナルフナシト間ケリ。理ノ必スナキトコロニシテ。 スト云。 今思フニ。水晶ノ中ハ。 氣通セサルナルヘシ。 其生ケルカ如キハ。 勿論 二見ヘタリ。 洋人ノ説ニ。 物ハ氣ヲトツレハ。即死ス。 併シ氣ノ洩レサル處ハ。 千蔵ヲ經テモ腐レ シト答フ。乃チ賭ニシテ。碎キシニ。蜘蛛躍り出テ。机上ヲ遶ルヿ敷返。風ニ逢テ水ト化スト。記 ノ中ニ蜘蛛ノ形アルヲ持チ來リテ。百金ニ賣ラント云フ。延詰蜘蛛生ケリャト云フ、生ケルニ違ヒナ ラ上下シ。 草ハ藻ノ類ニシテ。 青色真物ョリモ美ナリ。 明ノ王延詰ナルモノ。豪士ナリ。 或人琥珀 事ノ或ハア ナリ。破リラ後猶

0 1 22m3 4 5 6 7 18 9 10 1 2 white 3 measure 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30

朱槧ノ書ハ。漢土ニテモ。高直ナルモノト見工。 一書林。 宋槧ノ史記ヲ。 三百金ヲ以テ費ラント云。

力未清 当 医 等 卷之 元

八九

九〇

武記海國圖志等ノ書。 王延喆。暫ク借リテ。 ク。 開版ノ願ヒ手入ル時ニ逃ハ、。 窮スルナルヘシ。 殊ノ外高直ナリ。 一月ニ翻刻シ。 敷十部ヲ書林ニ返セシコアリ。 ばムラクハ。 延詰カ如キ人ナキコヲ。併シ延詰モ。 今ノ如 我邦モ。 近年唐舶至ラス。

文政五年。備中笠置ノ人。 文助。 癰潰エテ。 二鰻魚膿血ニ從ッテ出ッ。 長サ寸餘ト。 小寺某ノ

ニ見ユ。 然レハ石中ニ魚アルハ。 恠シトスルニ足ラス。

文政二年三月。 備後深津郡引野村百姓仲介宅ノ榎ノ根ノ地中ニ。 人聲アリ。 三四丁外マラ聞へ。 晝 リー向ニ酒ヲ飲ミエス。 六七年ハ。 一滴モ唇ニ付ケス。 又稍ニ飲ミ始メシカ。 幾クナラスシテ死セ 別府ノ僧蘭谷ハ。 我親交ナリ。 敷年前死シタリ。 其生平酒ヲ嗜ミ。 他ニ招カレタル時。 盃ノ出ルコ 升ニテモ已マス。 奇ナル物トラ。 家兄淳。 其半ヲ乞ヒタリ。 半ニテモ。 酒ヲ吸ラヿ易ラスト。 治來リテ話シケルハ。 蘭谷酒ヲ飲ム敷升ニシテ酔ハス。 一日頻ニ酒ヲ欲シタレ圧。 酒出テス。 待チ 銀ラ。 頻リニ呼っ中ニ。忽咽ョリ。 遅キ時か。 口癖ニ。 リ。扨其石。 何事モナクシテ。 終夜鳴リシヿ。 前後二十日ハカリノ由、茶翁ノ話シナリ。 懺ムラクハ。 堀リテ 所謂酒石ナラントラ。是ヲ盆中ニ置キ。澆クニ酒ヲ以テスルニ。忽ニ吸ヒ乾カシ。幾 焼石將ニ出ントスト云ヒシヿハ。 予モ屢聞ケリ。安政丁巳。 其同里/友矢田孝 一片ノ石ヲ吐出セリ。 其長サニオナルヘシ。 幅ハ六七分。 夫ョ

戶ニテ逢ヒシ時ハ。 已二四十五六ナリ。 猶高キ木屐ヲ着ケテ。 何レノ時。 發足セシト問フニ。 今朝出立セリト云フ。 時二黄昏ナリ。 狗之助ハ其綽號ナリ。 又高瀬ノ舟中ニラ。 尾張ノ僧ニ逢フ。 是モー日七十里ヲ歩スルョシ。 自賛セ リ。又亡友鈴木春山。 粗瑣事鉄ニ記シタレ氏。 門人佐藤壽八郎ヵ紹介ヲ以テ。 天狗之助ト云フ人ニ逢へリ。 此人一日七十里ヲ歩スルヨシ。 天 肥前ノ多良山ヲ踰エタリト云フ。足ニハ高キ木屐ヲ着ケタリ。是ハ其壯年ノ時ノて。 長崎ョリ來リシニ。彼地ノ人前夜鷄鳴ニ認メタリト云手東ラ。吾ニ屆ケタリ。 千里人ノ事ヲ見當リシユへ。附記ス。 三十里ハ歩スル由ヲ語レリ。此三人 長崎ヨリ。我家マテ四十八 後江

0 1 22m3 4 5 6 7 18 9 10 1 2 white 3 measure 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30

謝在杭ヵ五襍爼ニ。 男子子ヲ生ムト云フ話シアリケレハ。 今ハ男色流行故。 然ルヘシト云ヒシヿヲ 余力友二窮スル甚タシクテ。 妻ヲ娶ラント欲スルモノアリ。 皆嘲リテ。 育』男女數人。操作與常人「無異。亦罕」疾病」云。此クノ如キ人ヲ迎ヘタラハ。 天舍地舎ト名ツケショ。 又男子范文仁子ヲ生ミショ。 載セタリ。元ト鳥有ノ話シト思ヒシニ。 左ナクラハ。 必ス餓死スヘシト云フ。余カ日ク。清人ノ書ニ載ス。博野有||一婦人。 一生不||飲食。而 清人ノ書ニ。 儼然ト書セリ。 江西ノ提督揚富力嬖童。 飲食セサル婦人アラハヨシ。 妙ト云フ。皆絶倒セリ。」 二子ヲ生

一余弱冠後ョリ。 眠り甚タ少シ。 同人皆及ハスト云フ。 今日萬暦中ノ人。 王九皋字鶴鳴。 自少至老。

八柱草堂随節燈之八

一九

九二

審越ナルへシ。 夜未曾寐。終身不知有夢ト云フ事ヲ見出シタリ。 我輩ハ豊言フニ足ランヤ。 九皋ョリ前ハ。 齊ノ

六子。 書ニ。天啓年中大名ノ人。一逢七子。疾病コトニ。七人皆ナ同シ。順治中。漢川縣ノ民王某妻一産 撃生ニテ。四乳八子ノ婦人アリ。 又三子ハ度々。 四子モ取罪ケタリト。年ハ 叉北魏一婦人一產四男。 余力妾平野氏。 兒ヲ生ミシトキ。 四産十六男モアルヨシヲ載セタリ。然レハ穏婆ノ話シハ。平々タル 江戶ニテ名高キ穩婆ヲ雇ヘリ。 其話シニ。産スル毎ニ。 信セサリシカ。漢土ノ

余ヵ姑姉ノ子。 古後長八。 雷ヨリ撃レテ仆レシカ。 良久クシテ甦レリ。敷目ハ。 體火ニ焚カレタル 山中ニテ蜂出ルトコロハ。妄リニ近ツクヘカラス。 誤テ撃ツ時ハ之ヲ活ストテ。 其徴ヲ数々アケタリ。長八余二。 ヤウニテ痛ミシカ。月ヲ踰エスシテ全快セリ。漢人ノ説ニ。雷人ヲ撃ツ。必ス天醫アリテ之ニ從フ。 殺セシ蜂。殆ト三升ホトアリタルヨシ。 シニ。大ナル蜂敷千。 馬背二集り居タリ。 穏ヲタチケレハ。馬忽チ體ヲ地ニスリ付ラ疫ル。 其時歴 レ行き。 木ノ株二繋キオキ。 其身二三丁外ニテ。 草ヲカリ居タリ。馬ノ鳴齊類リナル故。 返リラ見 其夜馬終ニ死シタリ。木ノ孔。 去年先兄棣園ノ話シニ。 今春郷人馬ヲ山中ニ連 一物來テ我身ヲ壓へ。是ト四五度ハ。 即チ蜂ノ巣ナルョ

人皆死シ。 後實誠下伴僧の甦リラ。僕ノミ死セリ。亦誤撃力。 浪華地方百餘所 此時余力友九條ノ僧實誠 ト云者ノ宅ニ落ツ。 實誠及僕伴僧三

四年前。壬子五月十一日。余カ淡路街ノ居ニ。雷震セリ。 閾ニテ止レリ。 火珠散セシトコロ。 妻ノ膝ヲサルコト四五寸。 兒ノ足ヲ去ルコト六七寸。 而シテ何 乳母阿章。室ニアリ。雷震セシトコロ六疊ノ間ナリ。妻ハ其東四疊半ノ間ニアリ。兒ト乳母 祖先ノ徐慶ヲ威セ ノサハリモナシ。 却テ東西隣ニハ。 其響ニテ。 耳聾シ氣絶スル者アリ。 余歸リテ後。 天ヲ拜シテ。 四疊ノ間ニアリ。 其震セシトコロハ。 柱クシケ。 瑣細ノ物ニ至ルマテ。 悉ク紛盛トナル。 然ルニ 余ハ備中ニアリ。 妻清水氏ト。 八。其北 仁四郎

0 1 22m3 4 5 6 7 18 9 10 1 2 white 3 measure 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30

澤春畔ノ話シニ。其近隣ニ至ツラ親シキ大家アリ。 申傳へテ。地震ノ時。舟ニ乘ラサル様二心得へキニ。 ニテ。母丼ニ三婦二女。一家六人死シタル由。 レリ。 クツカヘリラ。 女子六人皆死シテ。 男子ハ一人モ死セサリキ。 寺ニ葬リシトキ。 主僧過去帖 至極厚福ナル嫗ト稱セリ。 然ルニ去年十一月地震ノトキ。 右ノ母ニ。 三婦幷ニニ女隨ヒテ。 舟ニ乘 男二女ヲ生ミ。 長子ハ家ヲ繼キ。 二弟ハ分居シテ。 各妻ヲモチタリ。三婦毎日姑ノ側ニ侍リ孝養シ。 世間ニ如此奇事モアルカナト云フ。 其故ヲ問フニ。 百三四十年前寶永中ニ。右ノ家。津波 記録アリトン。右過去帖ニサヘアル位ナレハ。 旦那寺ヲ同フセリ。 其母年未タ六十ナラス。三 蓋シ其家右ノ事話シ出セ 其家二

九桂草堂随筆卷之二

九

九四

一丙辰ノ七月。 留マル者ハ。 舟子指シテ。 シニャ。鳥井元忠伏見ニテ殉節ノ時。賈人某從ヒ死ス。其後數十年ニシテ。鳥井ノ子孫。大坂城ニテ い。傷心ニタヘサル故。 彼ノ所崩ル、前夜。 山頂ニ燈光多ク見ユ。此タ、事ニアラスト云テ。 遁レ去ル者アリ。室津ヨリ舟ヲ發シ。 遠崎ノ地方ヲ過ク。 東山ノ崩落セシ跡ヲ見ル。 其下ニ村落アリ。 過半歴サレテ死セリト語レリ。 Tアリ。右賈八ノ子。 偶其座ニ居リ合セ同ク殺サレタルョシ。 兎角言ハヌ様ニイタセシ内。 百餘年ヲ過キテ。 途二知ル者ナキャウニナリ 皆同シャウノ事也。一

唐ノ太宗ノ。 昭陵ノ石馬。 汗流ル・コアリ。又明ノ成祖。 鐵鉉ト戰ヒシニ。 群僧ノ敵ヲ助ケテ。 日晚方。 十年前。 二偏シ。 ヒ甚ツトムルヲ見ル。 其跡ヲ逐テ行キシニ。 大佛山琵琶洞中。 石壁上羅漢ヲ刻スル者。 ヲ聚ムルコ多シ。 一、二此事ナシト云フへカラス 收マル時。其人二湖セント欲スルニ。見へス。一時順々。 ヒシ人ノ話シニ。火熾ナルヰ。其邊ニ未タ嘗テ識ラサル僧敷人出テ火ヲ防キ。是ヲ全フセショシ。火 丙午ノ歳。江戸府内邸類焼セリ。余モ此時。邸ニ候シ。火燃エツキタルヲ見ァ。去レリ。翌 火跡ニ行ラ見シニ。 西南ノ隅ニ。 鐵檛ヲ以下其頭ヲ擊碎ク。此像ハ。貞觀中ノ製ノヨシ。吾邦モマ、此類アリ。 善神王ノ祠アリ。祠拜二其風下二三家ハ遺レリ。火ヲ救 神ノ使ナリト稱セリ。物久シケレ 汗流レテ 體

ミタル處見ユルト云フ。 ハ腰マラナリ。 今年其村ノ人二遇ヒシニ。 今八其ヨリ以下モ成リタルヨシ。 是何者ノ所爲ナルニャ。村人ハ天狗ナラント云へり。 成ラ 去年閏七月モ。 新二刻 人來

往年備中ニ游ヒシ時。倉敷ノ管下真鍋島ト云フ所ニ。 ンヤ。實說ニテ。今年ノ如キヿ有ラントハ。海ョリ生スルハ皆水搔アル由。 牙ヲ雕物ニ用フル由。 又最ヲ筆ニ造リテ。 大坂ニ。 死シタル鼠ヲ船二艘ニ積ミテ。 賣リ來ルコアリ。 百匹ヲ五文位ヒニテ買ヒタル者アリ。 其 ツ、殺シ喰フニ因リテ。 何ノ用ニモ立タス。 犬ノ方却テ用立チタリト。 其主人ヨリ聞ケリ。 又往年 リ湧出タリト云フナリ。 徃歳備中某氏ノ倉ニ。 鼠多ク出テタリ。 毎日四五百ヲ捕ヘシニ。 猫ハ一匹 リ。 人ヲ發シラ之ヲ平ケシメントスル由ヲ聞ケリ。 今年ハ東國幷ニ雲石地方ニ夥シク出テ。 スコ寡カラスト問ケリ、 坊間ニハ。 其圖ヲ賣リテ。 前後六十萬ホト麩セシ地アリト云フ。 全ク海ョ 大利ヲ得ルト聞ク。 當時ハ虚言ナリ 海中ヨリ鼠夥シク出テ。稼ヲ害セシ故。縣合ヨ 害ョナ

0 1 22m3 4 5 6 7 18 9 10 1 2 white 3 measure 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30

池田道策ノ話シニ。 糊リタル小盒アリ。 大二家内ニ索メタレトモ見へス。 平日見タルモノモナシ。 然ルニニ十七年過キテ。 家ヲ浪華ニ移サント 父沒シタル後。間モナク夢二入リテ。 我常二用ヒテ 人二示ササル。青年紙二 是小家人三知ルモノナシ。汝一タヒ開キ見テ。我墓三納ムヘシト云フ。 スルニ付。 家内ヲ洒掃セシニ。 果シテ青キ色ノ小盒出タリ。 前年ノフ 今兹嘉 E

九桂草堂随筆卷之八

九五

ーカラ

ヲ思ヒ出シ。 竊二披キ見シニ。 ルモノナリ。人ノ前ニテ出スコ不敬ナリト申セシカ。身後マテモ。 入レ協ナリ。 因ラ其坐ョリ起チテ。 氣ニカ、リタルニャト話セリ。 墓ニ埋メタリ。 穢ナ 先

室合原氏ノコ是ニ類シタリ。 追思録ニ載セタリ。

去年甲寅ノ冬歸リシ。 亞墨利加ニ吹流サレタル。 伯州ノ人ノ口書ニ。 漢土ニテ。 我邦ノ音吉ト云

者ニ交リタリ。 音吉妻ハ天竺人ノ由。 誠ニ奇縁ト云フヘシトアリ。

余江戸ノ人松河岸三住セシトキ。 府內即ヨリ文作ト云フ僕ヲ雇ヘリ。 大二疑と。 今文作二遇へり。 青キ單衣ヲ服シ 。肩ニ竹籠ニ樽ノセンヲ多ク入レタルヲ荷へリ。 其姿。 平日ノ如 四年我家二居レリ。」府內ノ東人藤田廉平下云フ人。常二來往セリ。 り。文作去リテ後、又久米藏ト云フ者ヲ。邸ヨリ雇へり。 シ。唯我ヲ見テ。言ハント欲シテ言ハス。我其鬼ナルヿヲ覺リテ。返レリト云フ。余ソレハ恠シキヿ ル。 之ヲ聞ラ。 ソレハ必ス別人ナリ。 彼五月中脚疾ニテ死シテ。 日死シタリト云フ。 別人ヲ誤リ認ムルニテハ無キャト云フ。志計固ク文作ニ遠ヒナシト云フ。」二三日シテ藤平來 妾平野氏ト。 芳町ノイツナヲ使フ女巫ニ見ヘテ。 問ヒショシ。」 歸リテ其始末ヲ述ヘケ 居ルコー月。志計芳町ニ往キシカ。俄ニ返り。顔色土ノ如シ。何事カト問フニ。 是モ人シカラスシテ去レリ。 傳通院ノ内ニ葬レリト云フ。志計 一日往年貴家ニ事へシ文作。先 同時ニ。志計ト云フ婢ヲ置ケ 云フ。 巫何事カト云フ。 志計八。

ク。 廉平日雇頭ノ者ヲ。 余カ前ニ呼ヒテ。 廣瀬先生ノ婢文作カ墓ニ塞ルヨシニテ。 案内ノ事ヲ嘱セ家ニ事アリテ。 先行ク。 志計余ニ嘱シテ。 傳通院マテノ案内者ヲ邸ヨリ借ラント云フ。 余廉平ニ告 知ラサルト見へタリト云フ。」 其レヨリ數日後。 傳通院ニ参ラントシラ。 行装ナシケル。 余其日 侯 死シテ。 弔フ者モナシ。 セメテ一瓣ノ香ヲ墓ニ手向ケタマハ、。 芳情ヲ威スヘシト云フテ。 イササ 始リテ。 文作當年五月。 府内邸ニテ脚族ヲ病ンテ歿セシヿ。 傳通院ニ葬リシヿ。 幷ヒニ數目前芳町 ラハト云フ聲セシカ。 巫忽チ仆レテ。 ロョリ沫ヲ吐キ。絶シタルヤウナリ。ヤ・アリテ。稍クニ目醒 シタルナリト云フ。日雇頭。 其位ノフラ開分ケヌカト云フ。イヤ文作ハ死ニハシマセヌト云フ。 ニテ逢ヒタレトモ。幽明隔タリラ言語ヲ通シ得サリショナト。詳カニノへ。其末我三百里外ノ地ニ客 フ聲い。 既三文作力聲ナリ。志計。 巫ニ其名ヲ通セサリシニ。 忽チ志計トノト呼フ。 其レヨリ問答 フ。巫ハ。口二咒文ヲ唱へ居タリ。志計水ヲ澆クヿ三度。 巫嗚嗚嗚ト云フ。聲三タヒニテ。末ノ鳴ト云 ラレタリ。 其手當セヨト云フ。 日雇頭不審ノ顔色ヲナシテ。 君ハ何ヲ宣フャト云フ。 メタル如クニシテ起ツテ。生死ハ如何カト問フ。志計死シタルニ遠ヒナシト云フ。巫ハ。右ノ問答ヲ ルヘシト云フ。巫ノ前ニ青キ笹ヲ石ニシハリ付ケタル物アリ。巫。志計ニ。水ヲ竹葉ニカケヨト云 ソレハ人米蔵カコニテハゴサリマセヌカト云フ。 答フ。 年ハ幾何ソト云フ 廉平顔色ヲ變シ。 年ハ知 쨦平イラッテ。 五月中二死 一前後ナ

0 1 22m3 4 5 6 7 18 9 10 1 2 white 3 measure 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30

桂草堂随筆卷之八

一九

イツナハ。 樽ノセンヲ作リラ質ルナリ。 廉平志計ノ手前ヲ氣ノ毒ニ思ヒ。 余ニ速カニ歸リテ。 計二逢ヒタレトモ。 ハ幽靈ニ遇ヒタルナラント思ヒ。此ノ近日ハ。寝食モシ得サリシニ。安心ナリトテ歸リタリ。總テ 余歸リシ井。 志計既二出カケ。途中ニテ行合ヒ。右ノ始末ヲ述ヘケレハ。 志計大二喜ヒ。 今迄 何ノ用事ニテ行キシャト問フニ。 橡ノセンヲ賣ルナリト答フ。 府内邸ノ仲間。 暇日ニハ。 此等ノフ多キョシ。 四年フリニテ。少シ見ワスレ。人造ニテハ如何ト。熟思スル内。 捧腹ニタヘス。文作ヲ呼ハシム。 文作來リテ平伏シ。 乾ヒクレヨト云 志計去リタリ 首二前日志

余二我家ノ朽木子ト云フテ嘲リタリ。」 其年十月頃。 余徳ニテ殆ント死セントス。 周平毎日來リテ看 是ハ別ニ御家人ノ株ヲモチナカラ。 同居セリ。 其義弟頗ル蹂爛ノ人ニテ。 其名ハ。 諱テ書セス。 御家人ノ内ニ。 余ト親戚同様ノ交リセシ人アリ。 癸卯ノ年。 余門生古谷周平 座二就ク。 其顔色ヲ望ムニ。 欣々然タリ。 言語サハヤカニ。精神常ニカハレリ。我モ時節到來ニテ。 クオキラ庭内ヲ洒掃ス。 某御早フゴザリマスト云フ。彼人。 箒ヲステ、。 其家二賴ミテ。 食客トナセリ。 其家主人。 モト株ヲポメタル人ニテ。 家二付キタル義弟アリ。 一日世ニ變ナルコモアリト云フ。 何事カト問フニ。彼ノ朽木子。 常ニ晏起ナリシカ。 立身モ出來ソウ ナ勢ヒニナ レリト云フ 其レハト云フニ。 畫モ午時マテ眠ル。 周平君御參ナレト云フテ。 深川玄德稻

我タケ高ク。 人ノ邪魔ニナルトラ。 頻リニ跡ヨリ卑フセヨト云フ。 我親ノ生付ケタルマ・ナリ。 自 常盤橋ソトノ時ノ陰徳。今陽報アルナラント云フ。扨此人ハ。吾心ニハ常ニアリラ。面ハ見忘レタル 其人。 君ハ武士ナリトテ。 大二威シタリ。其レヨリ。 モ。 益々顧リミス。其後。 其地ニアル薬店ニ入り。 茶ヲ乞ヒシニ。 日既ニ暮レタリ。 樓上ヨリ。 一 由ニハナラヌト云フ。 薦ノ者數人來ラ云へトモ。 我叱り付ケタリ。 人ニラ。 其言ヲ聞テ。 始メテ其ノ服某ナルヿヲ思ヒ出セリ。 扨常盤橋ソト、云フ事ハ。 今ヲ距ルヿ レタリト云ハ、。耻ナリ。 如何ノ仇センモ測リカタシ。今夕ハ是ニ宿シ玉へト云フ。我聞テ。今夕歸ラサルハ。勇ニ非スト云 十九年。 我二十二歳ノ時ナリ。 山王祭ヲ觀ントテ。 常盤橋ソトニ行キシニ。 追々アトヨリ人集リ。 ル。 某モ其後御勘定所ニ出入リセシカ。 昨今聞ケハ。 君モ既ニ立身ノ時ニナリタル由。 全ク先年ノ 是非御歸リナラハ。 我組ノ者三十人アリ。 是ヲ以テ送ラセント云フ。 我御芳志ハ威スルニ除リ 彼定メテ裏道敬道等二人ヲ置クナルベシ。 我先刻見レハ。 一組五百人六百人モアリ。 若喧嘩ト云フコアランニ。三十人マテ用意シテ 一人ニラ。 數百人ヲ相手ニ。 死スルトモ。 何ノ耻カ之レ有ラント云フ。 相見テ。 君ハ人トイサカヒシ玉へり。彼等か。皆命知ラスノ溢レモノナリ。 我名ヲ呼ヒテ。 本通リヲ通リタラハ。 一石橋ノ邊ヲ經テ歸ラントセシニ。 某君人シク拜顔セス。先ツ御肚健ニテ悦ヒ入 又同心ノ如キモノ來リテ云へト 却ラ無事ナラント。 熟々思フ

0 1 22m3 4 5 6 7 18 9 10 1 2 white 3 measure 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30

九桂草堂随軍卷之八

一九九

之八

即チ此ヲ云フナリ。其レヨリ。服某ニアハス。昨日始メラ遇ヒタリト云フ。 潛二仕官ノ望ミアラハ。 二百石ヲ以テ抱へ入レント云フ。 某心ニ。 御家人ナラハ。 ヤ來タガ。 ドウスルカト云フ。皆遁散リタリ。其後聞ケハ。 藥店ノ樓上ニハ。 時ノ執權某侯。忍ヒ キニアラス。一々と諸侯二仕へテハ。立身カキリアルト思フテ。固夕醉シタリ。 モノ四人。 別ニ色々惡事アリテ。 遠島ニナルヘキ町風聞ナリ。某族吾事ヲ善ミシ玉ヒ。 服某ヲシテ。 ヲ好ミ。 宜シカラスノ旨アリケルニャ。 ノ者。他罪ハアルヘケレ圧。 本ハ吾事ョリ起リシ故。 一百石ヲ頂戴セシモ同様ナリト云フ。 服某周旋シテ。 遠島ノコハ途ニ止ミタリ。 ノ時到リシニヤ。 ト云フニ。 。 余笑テ、 彼君ハ訥辯ナリ。 足下ノ増補ニテハ無キャト云フ。 周平中々一言モ増補ナシ。 彼人立 以前ノ事ハ。知ラスト云フ。」其レヨリ五七日シテ。 朽木モ。 二十二二マテハ。 今ノ通リニテハナキョシナリ。我此十年前。 始メテ彼ト義兄弟 昨朝朽木又昧爽二起キラ洒掃ス。 除程才氣奮發セリト云フ。」 其ヨリ數日シテ。 其侍臣服某ト云フモノナリ。 俟ョリ。 子供上リ四五人居リテ。 町奉行ョリ。 祭後數十 某御早フゴザリマスト挨拶シケレハ。又周平君御参 何卒御憐愍ヲ願ヒ奉ル。 ソリヤ來タト云フ。我刀ヲ按シテ。 町奉行ニ。鳶ノモノ。 周平更ニ變ナルコアリト云フ。其レ 人ヲ捕ヘテ。 其兄來リシカハ。 其事ヲ問フ。兄 是ソノ話シノ大器ナリ 常盤橋外ノフトハ。 其儀カナヒタラハ。 併シ服某ニ右四人 青雲ニ上ルマシ 故ナキニ喧嘩 頭ラタル

心配ヲセシャト云フ。某聞テ。 割ヲ四人ニテ割リ出シ。 籍ニ相償と。 一年ニ。 或ハ十両。 或ハ十二三両。 今年迄既ニ二百金ヲ出シ 云フニ。 先ツコレニト云フテ。 二十丁ホト案内シ。 本所ノ襄町ニ行キケルカ。 二軒ノ家アツテ。皆又玄徳稲荷ノ側ヲ通リシニ。 鳶ノャウナル者二人。 旦那ニ少シ申上ケタキコアリト云フ。 聞カント 上奉ル。 且又私共二人ハ。 去年迄老母コレアリ。 キャウニ思召サレテモ。 氣ノ毒ナリ。 因テ竊ニ此十九年來。 萬分ノ一ノ御恩ヲ報ヒタルトコロヲ申 困窮仕ル上ハ。 最早力及ハス。 今年限リニ相止メ候。 右御出入ノ町人トモ。 以後ノ處ニ割ツ・。高 タリ。然ルトコロ。二人ハ既ニ沒シタリ。 私共両人ニラ。此二三年ハ仕リタリ。 併シ此クノ如クニ。 入ノ酒屋醬油屋米屋薪屋味噌屋等三内談シ。 旦那様ニサシ上クルモノハ。 二割ノ値ヒヲヒキ。 其二 圧。 獻シタキ心底ナレトモ。 旦那様ノ御氣象ニテハ。 三預リタル。 鳶ノ者四人ノ内二人ナリ。 先年御恩三預リタル時。 セメテ寸志ニ。 少々ノ御肴料ナリ 上漏り下濕と。 貧苦ノ狀。 酸鼻ニ堪ヘス。 此ハ何事ソヤト云フニ。 某二人ハ。 十九年前。 御厚恩 而シラ後食シタリ。 是モ今年二入リテハ。 行届カスナト。 細々語リタリ。 吾此言ヲ聞ラ。 吾家買フ所ノ物。今迄誠ニ下直ナリ 其レハ不審ナルコナリ。 ラ視ルニ 母殊ノ外御恩ヲ威シ。毎朝影膳ヲ旦那様ニスヱオ 一向ニ心付カサリシカ。彼四人ノ者。 此クノ如ク ヨモヤ御受ケハアルマシト云フラ。 竊ニ御出 既二先日モ。 御兄君。 何事カト問フニ。 昨日

0 1 22m3 4 5 6 7 18 9 10 1 2 white 3 measure 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30

杜草堂随虾卷之八

=

似タリト云フ。」 其レヨリ。 周平七八日來ラス。 何故ニカト恠ミシニ。 來リラ。 扨朽木珍事ヲ仕出 此ノ二百金。返サズバナラヌコナリ。御存ノ如ク。金ハアツテモ。一毛不拔ノ吾カ兄ナリ。 今度執政ノ內某族御退役ナリ。 某往年常盤橋ソトニテ。 某族ノ知音ヲ辱フシタリ。 濟ムマテ待タント云テ。 シト云フ。用人其面ヲ見シニ。 殺氣大ニ現ハレ居タリ。因テ歴サヘテ。 遇ハシメス。 シタリ。 某先生ノ許ヨリ歸リシニ。 隣家ニ朽木ノ同寮アリ。 其人ヨリ某ヲ呼ヒニ來レリ。行キシニ。 十五俵位ノ俸ニテ。 頂ヲ磨リテ。 踵ニ至ルマテ。 出シテモ。 二百金ト云フ金ハ。 出來ズ。 我憂フ 二二割サケナリ。 リ某ヲ召シテ。 朽木ニ問ハシム。 朽木他人ナラハ。發言シカタキ事ナレル。 老兄ナラハ告ケントラ。 其家ニハアラデ。朽木カ支配頭ノ宅ョリシテノコテリ。某ハ門外ニヒカへ居タリ。其人朽木ヲ携へ來 ル所以ナリト。 以テ此クノ如ク高直ナルャト云ハレショモアリト云フ。 某ト二人シラ。 朽木カ家ニ護送シタリ。 其人ノ話シニ。朽木頭ノ家ニ行キラ。 某何分ニモ合點ユカズ。全クカタリ躰ノ者。尊君ヲ欺クナラント云フ。 何トモ佐シキョナリト云フ。余聞テ。一タヒハ喜ヒ。 吾モ武士ナリ。 鳶ノ如キモノョリ。 恵ラ受ケタリト云ハレテハ。 甚スマズ。是非 坐シケルカ。何分合點ユカヌ血色ナリ。 朽木中々聞カス。 某カ格別ニ懇意ナルヲ以ラ。頭ョ 此義ヲ頭ョリ 一タヒハ憂フ。 爽心セルニ 直チニ見参シタ 某族八。 最早御 取次ク 朽木。御用ノ 中々聞入レ

向ケ。 怒り。 義理アル弟ヲ殺スカ。 無道モノメト呼ハル。 家ニラ介抱スルニ。先ツ狂人ナリ。唯食スルコ日ニニニ升。 兄宿直シテ。 洙タカヘラス。 一人ニテハ。 油斷ナラス。 因テ君ヲ招キタリト云フ。 其レヨリ。 其 引キョセ。腹ヲキルノ眞似ヲナス。某其亂心ヲ覺り。頭ラニハ秘シテ。彼ヵ兄ヲ呼ヒタレ氏。彼カ イヤナラヌ。 是非殺スヘシト云フ, 段々ワビテ。 今ハ何ラカカクスへキ。 吾ハ玄德稲荷ノ側ニスム ヲ殺スナリト云フ。 始メテ怖レタル顔色ヲナシ。 手ヲ合セテ。 ノ外サワキ。 畫ハ常ニ眠リタリ。昨夜某。 障子ヲ破リテ。 彼カ臥セシ所ヲ窺フニ。 始ハ熟睡シ居タ 夫ヨリ一月シテ。 其兄余カ家ニ來タリ。 懐ヨリーノ願書ヲ出シ。 添削ヲ賴ム。 其話シニ。 弟夜ハ殊 ト云フ」 其ヨリシテ。 其兄醫ニ見セントテ。余ニ賴ンテ。坪井誠軒ヲ招キタリ。 誠軒僅ニ其門ニ入 レハ。 毒薬ヲモル阿蘭陀醫來ルト云フテ罵ル。 誠軒モアマリナル事故、 余二辟シテ。 後ハ徃カス。 夜半過ル頃。 彼忽チ裸裎ニシテ。 衾中ヨリ出ル。両手ヲ前ニツキ。 四足ノ躰ヲナシ。 頭ヲ前ニ サナカラ狐ナリ。坐中ヨニニ度マハリシニ。至テ輕ク。 某精シク見テ。 刀ヲ拔キ。 躍リ入。 サア白狀セヨ。 汝ハ狐ナラスヤト云ヒシカハ。 大ニ 然ラハ刀ヲ斂ムヘシト云フテ。 御腹召 之ヲ引キ。 因ラ刀ヲサシッケ。弟ヲ救フテ。 弟ヲ苦ムル者 扨吾汝ニ問フィ 書い昏々トシテ。 夜ハ徹暁サワクナリ 先ッ先ッ。 音モセス。ヒヨイノート飛上ル丁敷 モ御ト 狐ノ人ニックト云

0 1 22m3 4 5 6 7 18 9 10 1 2 white 3 measure 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30

人ノ指ノ爪ノ透間ヨリ入ルト云フ。 今汝カ躰ハ。 何クニアリャト問フ。 答へラ。 先日解キ崩シニナ フィハ。如何ナルヿヲスルニャト云フ。彼答ヘテ。我躰ヲ叢ムラニカクシオキ。 如何ト云フ。 腐リタラハ歸ル所ナシ。 故ニ早ク歸リタシト云フ。 リタル。深川ノ茶屋ノ跡。 草茫々タル内ニアリト云フ。然ラハ。 他ノ家ニ招カレタマヒ。十分ニ酒ヲノミ。鰻麤メシヲ食シ玉ヒ。ョキ機嫌ニテ。社ノ脇ヲ過キケル テ。我小本玄徳稻荷ノ社ニ。他ョリ來リ依リシモノナルカ。故キモノトモ。多々居リテ。 神常ニ復セサルナリト云フ。 然ラハ稻荷ニ願ツテ。 汝ニ食ヲ得サセン。 去ランカト云フニ。 去ルへ 畫ハ靜ナリヤト云フ。 答へテ。 畫ハ神牌ト刀劍トヲ怖ル。 夜ハ何ニモ見へスシテヨシ。 夜分食スル 入リタル様子ニテ。我ハ野狐ナリ。 ナト云フ一念ョリ。 歸リラモ食ナケレハ。 此二居ルニ如カスト云フ。汝何カ故ニ。 弟二付キタルヤト云フ。 彼答へ フラリ挑灯。 一度い高ク。 一度い卑ク。 我ヲ応レテ行キ玉ヒシヲ見テ。誠ニ人ハ美ムヘキ物カ 一粒モ施サス。二日クラハス。 。我食ナリ。此御方か。 豊食シ玉フ分ナリ。 フトツキタリト云フ。然レハ正一位ニテモ勘請セハ。 僟ニタヘカネタル折カラ。 夜ハ既ニ九ツラ過キタリ。此御方。 唯食ヲポムルノミ。敢ラ正一位ヲ望マンヤト云フ。 我畫ハ至ラサレモ。 此御方。 某力弟野狐三苦 夫レナラハ。ナモニ歸ラヌカト云 汝是ニアリテ。其躰腐リタラハ。 去リナンヤト云フ。 クタピレテ。精 何ヲ以テ。 新叁卜云

副島尚絅カ事ハ。 辛亥ノ九月。 余郷里ニ歸省シ。 重陽ニ。 才田村蒲池久市ト云フ者ノ家ヲ訪ヒ。 一 宿シケルカ。 翌日義姪範治ヨリ。 除り奇ナル事トテ。ワザト一生ヲ遣ハシ。 書狀ヲ送リケリ。 答セシ前夜ノコナリ。 世=狐ノツキタルコ多シト云へ圧。 此ノ如キ詳ナルハ少シ。 野狐ノ手際ニテ。 ケ玉へト云フ趣意ナリ。」 夫ヨリ二三日過キテ。 其兄周平ト共ニ來リ。 右願文ヲアゲタリシニ。 狐ヲ問フニ。 食ヲ得サルニ因テ然ルトノ由。 願クハ尊神ノ惠ヲ以テ。 此ニ食ヲ分チテ。 弟カ苦ミヲ助 ハ既ニ去リタリ。 -九年ノ夢ラ見セシハ。 尋常ノ野狐ニテモアルマシ。 後九年ニシテ。 我郷ニ副嶋尚絅ノ事アリ。 皆夢ノ如キヿニテ。唯某ノ夜。他ニ招カレタルト。狐ノ云ヒシヿ。實説ナリ。 唯朽木。 精神未タ復セスト云フ。扨委々問セシニ。 常盤橋ソトノ一條。 本所ノ 乃周平力始メ問

0 1 22m3 4 5 6 7 18 9 10 1 2 white 3 measure 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30

昨年以來怠リナク相通に居候處。 昨年四月頃ヨリ。 絶テ來リ申サス。 今日始テ來リ申候ハ。 私事 今日一奇事御座候。因ラ申上候。 筆ヲ執リ書ヲ作リテ已マズ。 テ吾家ニ歸リ候比ロ。 ニテ。 書ヲ披キ居候內。 忽滿身ゾツト致シ候樣相覺へ。 去戌年四月十七日昧爽。 天モ漸ク明ケ候處。 右ノ手動キ候テヒマス。 塾ノ輪讀二出候處。 塾門未夕開カス。 門前ノ庚申塔ニ倚り。 殘月ノ光リ 或ハ詩ノ句ナト書シ候。 塾生副島尚絅ト申スモノ。 中城村ノ醫元脩ノ養子ニ御座候。 私モ只々不思議ニコレアリ候へト 右ノ肩背ニ物アリテ。取付 私無心ニテ。手い自ラ動き。 牛候故。

九桂草堂蘭軍卷之

101